

シリーズ・ひびきのケア

Our Care

6 認知症ケア

シリーズの最終回のテーマは認知症ケアです。年を取ったらみんな認知症になってしまうのでしょうか？以前は痴呆症あるいはボケ老人と言っていた認知症ですが、ボケと認知症は同じことなのでしょうか？ここでは、私たちのケアの基本的な考え方とケアについてご紹介いたします。

「スタッフの説得」ではなく「本人の納得」

●鍵をかけない介護施設

デイサービスにしる、グループホームにしる、特徴のひとつと言えるのが玄関などの出入り口に「鍵をかけない」ことです。認知症の方の中には、「仕事に行く」、「食事をつくる」、「子どもの世話をする」などの理由で、家に帰ろうとされる方がいます。当然、自分で玄関の戸を開けて外に出ていきますが、スタッフはあえて止めることはしません。「どうされました」などとさりげなく声をかけ、一緒に歩いたり、ちょっと離れたところから見守ります。外に出て気分が変わると、そのまま戻ってこられることもあります。

●一緒に並んで歩く

「帰宅願望」とよく言われますが、理由もなく帰ろうとする人はいません。その理由を探りだし、そこに寄り添うことが大事だと考えています。「仕事ですか。それは大変ですね。お送りしますので、車を用意します」と言って、お茶を飲んで待ってもらっているうちに、気分が変わることもありますし、車に乗ってもらい近くを一回り。「ここでちょっとトイレ休憩です」というと「じゃ、私もトイレに行っておくか」と言って、そのまま腰を落ち着けることもあります。

いずれにしても、「何時になったら帰れますから」といった説得は通用しないことがほとんどです。「スタッフの説得」ではなく「本人の納得」がポイント。響では、認知症の方の「思い」と一緒に並んで歩くことを心がけています。

●言葉ではなく雰囲気

認知症の方の中には、発話がうまくできない、会話

をすることが難しい方もおります。「車に乗りましょう」「この椅子に座りませんか」などと声をかけても、思うように伝わらないことのほうが多いものです。むきになって話しかければかけるほど相手はますます混乱してしまうこともあります。

そんな時、手招きなどのゼスチャーや同じ目線でニコリと笑いかけることで、なんとなく通じてしまうことがあります。言葉では伝わらなくても、「いい雰囲気」が共有でき、分かり合えることがとても大事だと現場でいつも実感しています。

●老化でも病気でも

安心できる認知症ケアを目指して

「年をとればいずれみんな認知症になってしまう」。そう思われている方が多いといいます。確かに、物忘れが多くなり、人の名前が出てこない、しまった場所を忘れてしまう、トイレに間に合わず失禁してしまう、といったことが多くなるのも事実です。でも身体機能が衰えていくのと同じように脳の働きも衰えていくのは自然なこと。家族の顔がわからなくなったり、服の着方を忘れていたりといった脳の病気として診断される認知症と、老化によるボケ症状の違いを理解し、病気でも老化でも、「食べる」「飲む」「排泄する」「眠る」そして「お風呂に入る」といった生活を通して、その方が落ち着いて過ごすことができるよう支援するのがひびきの認知症ケアの原点です。



デイサービス響 空き情報 (平成23年11月末現在)

	月	火	水	木	金	土	日
6時間以上8時間未満 定員26人	△	○	△	△	△	△	休
入浴	△	△	△	△	△	△	

◎＝十分に空きがあります。○＝空きがあります。△残りわずかです。空き情報につきましては、△の場合でもご相談ください。

※短時間デイサービスは12月いっぱい終了となります。これまで、ご利用ありがとうございました。

●12月のカレンダー

12月01日	ひびき通信12月号発行
12月08日	デイサービス理美容サービス
12月15日	グループホーム響ケースカンファレンス
12月22日	デイサービス響ケースカンファレンス
12月23、24日	クリスマスバイキング
12月30、31日	デイサービス年末休み ※年末にスタッフ演芸会を開催します。